

 宮嶋 裕二 社長	株式会社モバイルファクトリー(3912)
	

企業情報

市場	東証1部
業種	情報・通信
代表者	宮嶋 裕二
所在地	東京都品川区東五反田 1-24-2
決算月	12月
HP	https://www.mobilefactory.jp/

株式情報

株価	発行済株式数(自己株式を控除)	時価総額	ROE(実)	売買単位	
1,389円	8,822,737株	12,255百万円	26.2%	100株	
DPS(予)	配当利回り(予)	EPS(予)	PER(予)	BPS(実)	PBR(実)
-	-	65.85円	21.1倍	245.46円	5.7倍

* 株価は07/24終値。ROE、BPSは前期末実績。

連結業績推移

決算期	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主帰属利益	EPS	DPS
2015年12月(実)	1,751	314	305	185	20.01	20.00
2016年12月(実)	2,072	611	611	411	43.64	27.00
2017年12月(実)	2,437	736	722	511	54.18	17.00
2018年12月(実)	2,978	849	848	585	63.37	-
2019年12月(予)	3,137	900	899	588	65.85	-

* 予想は会社予想。単位は百万円、円。

* 2016年10月、1株を2株に分割。2017年7月、1株を2株に分割(2016年12月期EPSを遡及修正)。

株式会社モバイルファクトリーの2019年12月期上期決算の概要と通期の見通しについて、ブリッジレポートにてご報告致します。

目次

[今回のポイント](#)

[1. 会社概要](#)

[2. 2019 年 12 月期上期決算概要](#)

[3. 2019 年 12 月期業績予想](#)

[4. 今後の注目点](#)

[<参考:コーポレート・ガバナンスについて>](#)

今回のポイント

- 19/12 期上期は前年同期比 21.5%の増収、同 46.0%の営業増益。「駅メモ！」の DAU が過去最高を更新する等で売上が上期の過去最高を更新。システム利用料を中心にした売上原価の増加を吸収して営業利益も上期の過去最高を更新した。ブロックチェーン事業では、モバイル署名管理システム「Quragé Link」を 2019 年 5 月にリリースした他、当期中の正式版リリースに向け、分散型アプリケーション開発ツール「Uniqys Kit」の開発を進めた。
- 通期予想は前期比 5.3%の増収、同 6.0%の営業増益。下期も引き続き「駅メモ！」を中心に位置情報連動型ゲームの堅調な推移が見込まれる。利益面では、プロモーション費用の効率運用で収益性の改善が進む見込み。尚、2019 年 1 月 19 日～6 月 3 日にかけて自己株式(普通株式)339,200 株を 499,893,500 円で取得し、従前から保有していた自己株式 543,105 株を加えた 882,305 株(消却前の発行株式総数に対する割合:9.1%)を 7 月 31 日に消却した。
- 上期決算において、既存事業の好調だけでなく、新規事業の育成が順調である事が確認できた。収益の柱である「駅メモ！」はリリースから 5 年が経過したが、ライフログの性格を持つため、他のゲームとは異なるライフサイクルを持っているようだ。また、売上が漸減傾向にあるものの、コンテンツサービスの利益貢献も少なくないと思われ、新規事業であるブロックチェーン事業を育成していくための収益基盤は盤石だ。今後の展開に期待したい。

1. 会社概要

位置情報連動型ゲーム(以下、位置ゲーム)を主力とするソーシャルアプリサービスと着メロ等のコンテンツを提供するコンテンツサービスが二本柱。

「ブロックチェーン技術による非中央集権型経済へのシフトは、社会インフラの大変革を起こす可能性があり、エンターテインメント業界においても例外ではなく、将来性が期待される分野である」との考えの下、2018 年以降、次世代のインターネットとして期待が高まるブロックチェーン技術を活用した、分散型アプリケーション(DApps:Decentralized Applications)の普及を目指すプロジェクト「Uniqys Project(ユニキス・プロジェクト)」を進めている。ユーザーにはブロックチェーン技術を用いたアプリ DApps が身近になる環境を、開発者には手軽に DApps を開発できる環境を、それぞれ提供する事で DApps の普及に貢献すると共に自らのポジションを確立したい考え。

グループは、同社の他、「駅メモ！」及び「駅奪取」の配信を行う(株)ジーワンダッシュ、及びブロックチェーン事業を手掛ける(株)ビットファクトリーの 2 社(共に 100%子会社)。

1-1. 経営理念

経営理念は「わたしたちが創造するモノを通じて世界の人々をハッピーにすること」。ブランドメッセージとして、「感動を持ち歩け。」を掲げている。「感動」とはコンテンツの質&受け手の感受性、「持ち歩け」とはモバイル&能動的。サービスの提供者として、社員ひとりひとりが率先して「感動」との出会いを増やしていく事。そして、感動体験を共有し、社内全体で感受性を磨いていく事。更に、共有する感動体験をステークホルダーに対し伝搬していく事である。

1-2. 事業内容

事業は、位置ゲームを中心とするソーシャルアプリサービスと着メロ等のコンテンツを提供するコンテンツサービスに分かれる。ソーシャルアプリサービスが基本無料アイテム課金制であるのに対して、コンテンツサービスは月額課金制(一部例外)である。18/12 期の売上構成比は、ソーシャルアプリサービス 75.4%、コンテンツサービス 24.6%

ソーシャルアプリサービス

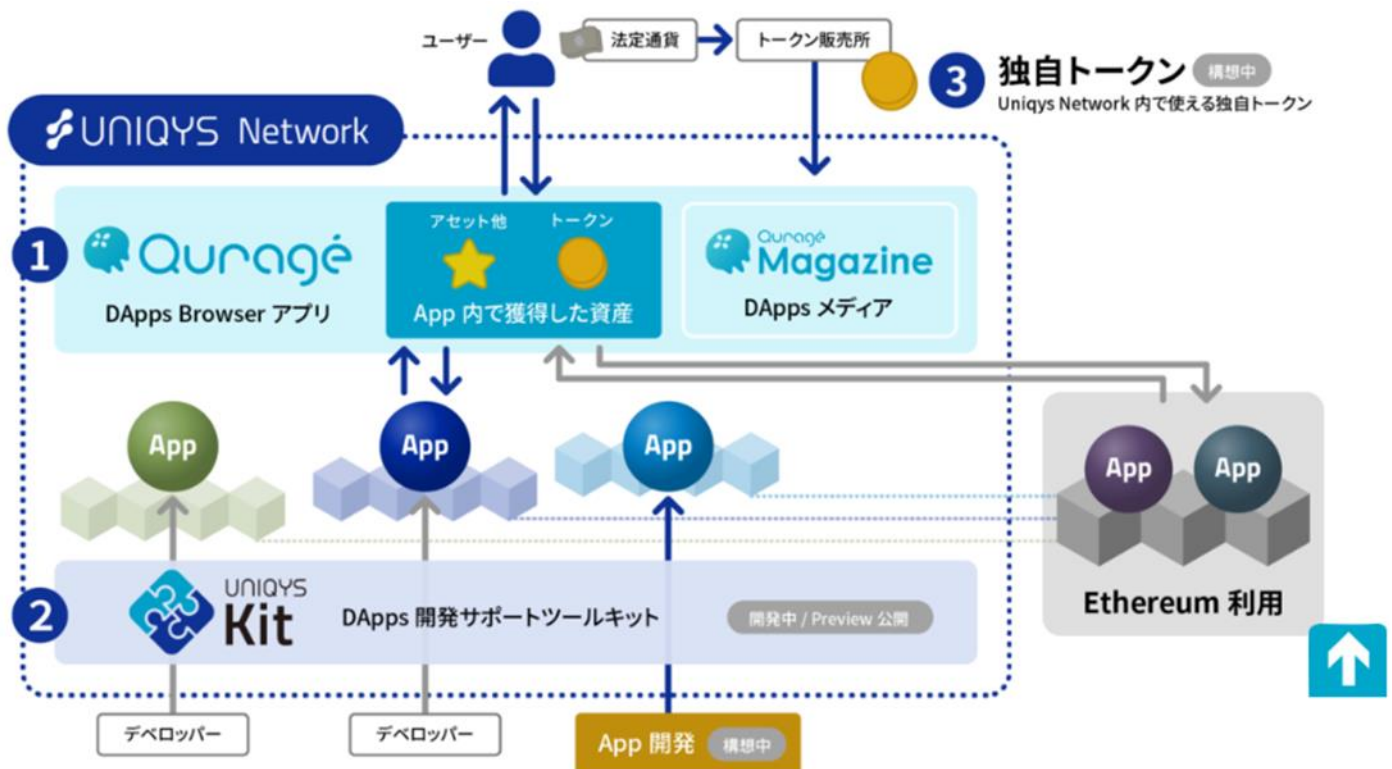
「駅メモ！」及び「駅奪取シリーズ」の位置ゲーム 2 タイトルを、SNS プラットフォーム (GREE、Mobage、コロプラ) やアプリマーケット (App Store、Google Play 等) を通じて配信している。2011 年 3 月にサービスを開始した「駅奪取シリーズ」は、身近な駅を他人と奪い合う競争要素、実際に訪れた場所が履歴として残るライフログ要素、奪取した駅や路線・称号等を集めるコレクション要素の 3 要素を有し、2014 年 6 月にサービスを開始した「駅メモ！」は「駅奪取シリーズ」の駅を奪い合ったり収集したりする楽しさを残しつつ、オリジナルキャラクターを育成する楽しさを追及した。

コンテンツサービス

主に通信キャリアが運営するサービスを通して着メロ等のコンテンツを提供している。着メロは、自社モデル形式の「最新曲★全曲取り放題」や (株)レコチョク等との協業サービス (OEM モデル形式) の「レコチョクメロディ」等、スマートフォンやフィーチャーフォン向けに月額 100 円 (税抜) から 300 円 (税抜) で取り放題というサービス。課金会員数は漸減傾向にあるが、原則内製でもあり、残存者利益を享受しているため収益性は高い。

ブロックチェーン事業

分散型アプリケーション (DApps: Decentralized Applications) の普及に向け、「Uniqys Project」を推進している。ユーザーにはブロックチェーン技術を用いたアプリ DApps が身近になる環境を、開発者には手軽に DApps を開発できる環境を、それぞれ提供する事で DApps の普及に貢献すると共に自らのポジションを確立したい考え。手軽に DApps で遊べるモバイルユーザー向けサービス「Quragé (クラゲ)」(ブロックチェーンに対応した新時代の DApps 専用のモバイルブラウザ) と、DApps 開発を支援するデベロッパー向けサービス「Uniqys Kit」を包括する「Uniqys Network」の構築を目指している。



(同社資料より)

2. 2019年12月期上期決算概要

2-1. 上期連結業績

	18/12期	上期	構成比	19/12期	上期	構成比	前年同期比	期初予想	予想比
売上高		1,369	100.0%		1,663	100.0%	+21.5%	1,558	+6.7%
売上総利益		803	58.7%		921	55.4%	+14.7%	-	-
販管費		430	31.5%		377	22.7%	-12.4%	-	-
営業利益		372	27.2%		543	32.7%	+46.0%	405	+34.1%
経常利益		371	27.1%		543	32.7%	+46.2%	405	+34.0%
親会社株主帰属利益		256	18.7%		342	20.6%	+33.3%	280	+22.0%

* 単位:百万円

売上・利益共に上期の過去最高を更新

売上高は前年同期比 21.5%増の 16 億 63 百万円。コンテンツサービスの売上が 3 億 18 百万円と同 17.7%減少したものの、コロブラでのリリースから 5 年が経過した「駅メモ！」の DAU(後述)が過去最高を更新する等で位置情報連動型ゲームが 13 億 38 百万円と同 38.2%増加した。

営業利益は同 46.0%増の 5 億 43 百万円。2018 年 4 月のステーションメモリーズ！(iOS/Android)の OEM モデル(他社名義配信)から自社モデル(自社名義配信)への変更の影響もあり、変動費であるシステム利用料が増加し原価率が上昇したものの、売上総利益が同 14.7%増加。一方、販管費はプロモーション効果の精査による広告宣伝費の減少で同 12.4%減少した。

尚、DAU とは、Daily Active Users の略で、1 日にサービスを利用したユーザー数。「駅メモ！」のサービス開始は 2014 年 6 月。

サービス別売上高

	18/12期	上期	構成比	19/12期	上期	構成比	前年同期比
位置情報連動型ゲーム		968	70.7%		1,338	80.5%	+38.2%
その他		13	1.0%		6	0.4%	-53.4%
ソーシャルアプリサービス合計		981	71.7%		1,344	80.8%	+36.9%
コンテンツサービス		387	28.3%		318	19.2%	-17.7%
連結売上高		1,369	100.0%		1,663	100.0%	+21.5%

* 単位:百万円

ブロックチェーン事業ではモバイル署名管理「Quragé Link」をリリース

Google Chrome や Safari、Firefox、Microsoft Edge 等の一般的なブラウザで「DApps」を利用する際、ブラウザ毎に秘密鍵を入力する必要があり、煩雑でセキュリティ面でも課題があった。しかし、「Quragé Link」を DApps に導入する事で、どのブラウザでも秘密鍵を入力する事なく DApps を利用できるようになる(DApps 利用の際の課題を解決)。「Quragé Link」は特許出願も行った。

この他、ブロックチェーン事業では、2019 年中の正式版リリースに向け、DApps を開発しやすくするための開発キット「Uniqys Kit」の開発が進行中である。

 LINK | DAppsにウォレットを連携 (QRコードを利用する例)

 LINK | DAppsのトランザクションを承認


(同社資料より)

2-2. 第2四半期(4-6月)連結業績

	18/12-1Q	2Q	3Q	4Q	19/12-1Q	2Q
売上高	576	793	766	842	761	901
売上総利益	375	428	401	460	418	502
販管費	239	191	189	194	180	196
営業利益	135	236	211	265	238	305
経常利益	135	236	211	265	238	304
四半期純利益	93	163	146	182	165	176
売上総利益率	65.1%	54.0%	52.3%	54.6%	55.0%	55.7%
販管费率	41.5%	24.2%	24.7%	23.1%	23.7%	21.8%

* 単位: 百万円

前年同期比 13.7%の増収、同 29.2%の営業増益

四半期ベースでも、第2四半期は売上・利益が過去最高を更新した。「駅メモ！」は、第2四半期と第4四半期に周年記念のイベントがあり、第2四半期のイベントがヒットした。

2018年4月のステーションメモリーズ！(iOS/Android)のOEMモデルから自社モデルへの変更の影響もあり、システム利用料が増加したものの、広告宣伝費の減少で販管費は小幅な増加にとどまった。

BRIDGE REPORT



サービス別売上高

	18/12-1Q	2Q	3Q	4Q	19/12-1Q	2Q
位置情報連動型ゲーム	362	605	589	667	592	745
その他	8	4	4	2	3	2
ソーシャルアプリサービス合計	371	610	593	670	596	748
コンテンツサービス	204	182	172	172	164	153
連結売上高	576	793	766	842	761	901

* 単位:百万円

売上原価

	18/12-1Q	2Q	3Q	4Q	19/12-1Q	2Q
システム利用料	37	190	185	208	186	232
サーバ費用	15	19	22	18	20	19
その他	147	154	157	155	134	147
売上原価	200	365	365	382	342	399

* 単位:百万円

販管費

	18/12-1Q	2Q	3Q	4Q	19/12-1Q	2Q
広告宣伝費	139	97	100	92	77	79
回収代行手数料	15	15	14	14	13	13
その他	83	78	74	88	88	103
販管費	239	191	189	195	180	196

* 単位:百万円

2-3. 財政状態及びキャッシュ・フロー(CF)

財政状態

	18年12月	19年6月		18年12月	19年6月
現預金	2,142	1,923	未払金	143	205
売上債権	361	540	未払法人税・消費税等	192	250
流動資産	2,547	2,500	賞与引当金	59	42
有形固定資産	27	30	負債	424	531
無形固定資産	7	8	純資産	2,247	2,093
投資その他	88	85	負債・純資産合計	2,671	2,624
固定資産	123	123	有利子負債合計	-	-

* 単位:百万円

上期末総資産は前期末との比較で46百万円減の26億24百万円。自己株式の取得を実施した事で現預金と純資産が減少した。自己資本比率79.7%(前期末84.1%)。

自己株式の取得と消却

2019年1月28日～2019年6月3日(約定ベース)にかけて自己株式の取得を実施し、普通株式339,200株を499,893,500円で取得した。同社は株主還元方針として総還元性向30%を目標としているが、19/12期の総還元性向は目標の30%を大幅に上回る見込み。また、既に保有している自己株式と合わせた882,305株(消却前の発行株式総数に対する割合:9.1%)を7月31日に消却する予定。

BRIDGE REPORT



キャッシュ・フロー(CF)

	18/12 期 上期	19/12 期 上期	前年同期比	
営業キャッシュ・フロー(A)	406	288	-117	-29.0%
投資キャッシュ・フロー(B)	-3	-9	-6	-
フリー・キャッシュ・フロー(A+B)	402	278	-124	-30.8%
財務キャッシュ・フロー	-560	-497	+62	-
現金及び現金同等物期末残高	1,615	1,923	+307	+19.0%

* 単位:百万円

税金等調整前利益 5 億 43 百万円(前年同期 3 億 71 百万円)、減価償却費 6 百万円(同 8 百万円)、売上債権の増加 1 億 79 百万円(同△70 百万円)、及び税金費用△1 億 37 百万円(同△84 百万円)等で 2 億 88 百万円の営業 CF を確保した。財務 CF は主に自己株式の取得による。

2-4. 事業概況

「駅メモ！」が誕生 5 周年(コプロラでのリリースから 5 年が経過)を迎え、5 周年記念イベントとして、駅メモ！5 周年記念カフェを原宿に期間限定でオープンした他、山手線全駅に「駅メモ！」の交通広告を掲出した。また、コラボキャンペーン「温泉むすめ×駅メモ！」やコラボイベント「フレームアームズ・ガール×駅メモ！」を開催中である。



(同社資料より)

駅メモ！5 周年記念カフェ



(同社資料より)

毎年好評を博している「駅メモ！カフェ」(今回で 3 年連続)を今年も原宿の AREA-QANNEX に期間限定でオープンした(2019 年 6 月 19 日~7 月 7 日)。これまでに実施したリアルイベントの年表をはじめ、リアルイベントで使用した「ヘッドマーク」や、貴重なイラストレーターのサイン色紙等が展示された他、コラボメニューやオリジナルグッズの展開もあり、大盛況のうちに終わった。「駅メモ！カフェ」でしか見る事ができない展示物を楽しみながら思い出を語り合ったり、グッズを交換しあったり、とファン同士の交流も活発だったようだ。

駅メモ！山手線全駅に交通広告掲出



(同社資料より)

「駅メモ！」誕生5周年を記念して6月17日から1週間、JR山手線全29駅のホームに駅メモ！のポスターを掲出した。ポスターは駅毎に「駅メモ！」にちなんだ思い出、駅の特徴や豆知識など「その駅らしさ」を表現したデザインを採用した。また、「Twitter等でも結構にぎわっていた」(佐藤執行役員)と言う。

「駅メモ！」ファンはもちろん、未だ「駅メモ！」を知らない人も楽しむ事ができたようだ。

温泉むすめ×駅メモ！



(同社資料より)

「温泉むすめ×駅メモ！」コラボキャンペーンを開催中である(2019年5月24日～2020年5月24日)。コラボキャンペーンでは日本全国の「温泉」がつく駅を対象としたデジタルスタンプラリーを実施している他、「駅メモ！」のゲーム内に温泉むすめのキャラクターがコラボでんことして登場し、指定の駅へ足を運んで位置登録をするとコラボでんこを獲得できる。全駅を回って、写真を撮ってアップするユーザーもいたと言う。「駅メモ！」ファンは、コラボキャンペーンをきっかけに日本全国の温泉地巡りを楽しんでいるようだ。

フレームアームズ・ガール×駅メモ！



(同社資料より)

コトブキヤが展開するオリジナルプラモデルを原作とした劇場アニメ「フレームアームズ・ガール～きゃっきやうふふなワンダーランド～」と「駅メモ！」のコラボイベントを開催している(2019年6月29日15:00～同年8月31日15:00)。「駅メモ！」のゲーム内で上映劇場を対象としたデジタルスタンプラリーを実施している他、「フレームアームズ・ガール」登場キャラクターがでんこになって登場するスペシャルガチャを提供している。

3. 2019年12月期業績予想

3-1. 通期連結業績

	18/12期 実績	構成比	19/12期 予想	構成比	前期比
売上高	2,978	100.0%	3,137	100.0%	+5.3%
営業利益	849	28.5%	900	28.7%	+6.0%
経常利益	848	28.5%	899	28.7%	+6.0%
親会社株主帰属利益	585	19.6%	588	18.7%	+0.6%

前期比 5.3%の増収、同 6.0%の営業増益予想

下期も引き続き「駅メモ！」の好調が続く見込みで、売上高が31億37百万円と前期比5.3%増加する見込み。利益面では、売上の増加と継続的な精査によるプロモーション費用の効率的な運用で営業利益が9億円と同6.0%増加する見込み。

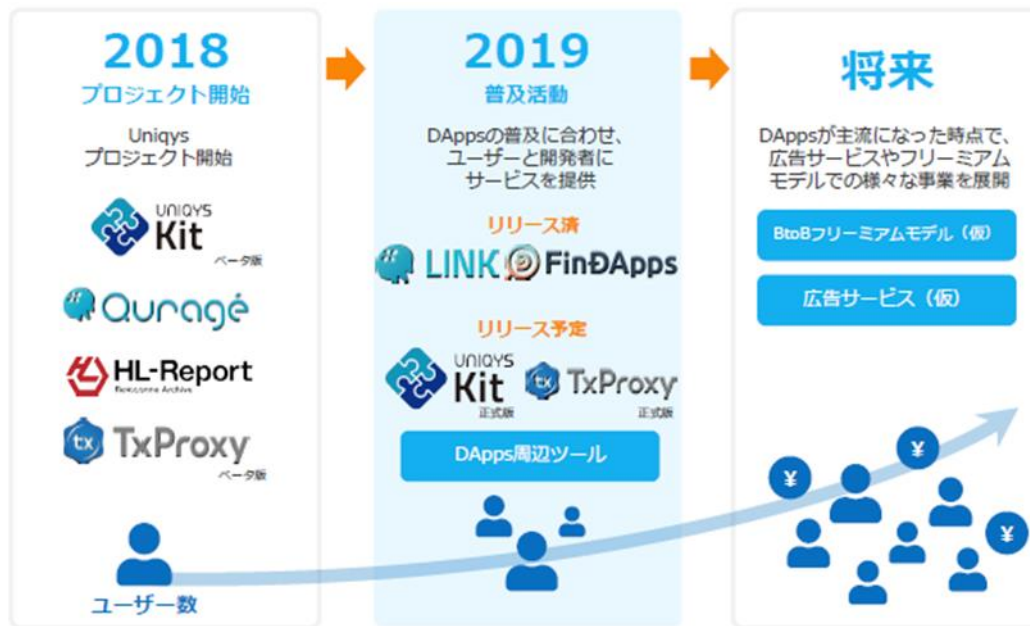
3-2. 今後の方向性

「国産位置ゲーム No.1」

「国産位置ゲーム No.1」企業として、サービスの安定運用のための基盤強化に取り組むと共に、各種コラボキャンペーンやコラボイベントを継続的に実施していく。リリースから5年が経過した「駅メモ！」だが、更なる長期運用を見据えて、この下期以降、安定運用のためのシステム面での基盤強化に取り組んでいく考えで、コラボやイベントによるユーザーへの訴求力の向上と並行して進めていく。

ブロックチェーン事業

モバイル署名管理「Quragé Link」に続き、今期中に DApps の開発支援ツールである「Uniqys Kit」の正式版をリリースする予定である。同社は、上場企業としての責任を踏まえ、日本の規制当局と話をしながらブロックチェーン事業を進めていく考えだ。このため、慎重にならざるを得ない局面が少なくないが、DApps を支えるサービスの第一人者を目指し、関連サービスの早期収益化を目指していく。



(同社資料より)

位置ゲーム、DAppsを支えるサービスであるブロックチェーン事業、そしてモバイルコンテンツの3本柱を収益の柱として、中長期の成長を実現していきたい考え。

4. 今後の注目点

上期は広告効果で「駅メモ！」が想定以上に収益を伸ばしたと言う。広告については、高い継続率という同社サービスの長を活かしつつ精査しており、新規ユーザー、カムバックユーザー、とターゲット明確にして、それぞれに刺さるような媒体、広告のかけ方等、厳格な広告出稿管理を行っているようだ。

一方、通期業績については、保守的な予想にとどめた。「駅メモ！」はライフログの要素が強く、ライフログであれば、今後10年ぐらい記録し続ける方がいても不思議ではない、と言う。このため、単にDAUの伸びのみにフォーカスするのではなく、長期的なサービス運用を見据えて、投資すべきところに適時適切な投資を行っていく考え。この6月にアクセス障害が発生した事もあり、下期は投資が先行する可能性があり、保守的な想定にとどめたようだ。

ブロックチェーン事業については、スピード重視でグレーゾーンを進んでいく企業もあるようだが、同社は当局との話し合いの下、慎重かつスピーディに進めていく考え。慎重ではあるが事業の進捗が遅れている訳ではなく、計画通り、今期中の「Uniqys Kit」のリリースを目指している。上期にリリースした「Quragé Link」はDAppsの利用者にも開発者にもメリットがあり、DApps普及のハードルを下げるユニークな製品だ。

上期決算において、既存事業の好調だけでなく、新規事業の育成が順調である事が確認できた。収益の柱である「駅メモ！」はライフログの性格を持つため、他のゲームとは異なる製品ライフサイクルを持っているようだ。また、売上が漸減傾向にあるとは言え、コンテンツサービスの利益貢献も少なくないと思われ、新規事業であるブロックチェーン事業を育成していくための収益基盤は盤石だ。今後の展開に期待したい。

参考:コーポレート・ガバナンスについて

◎組織形態及び取締役、監査役の構成

組織形態	監査役会設置会社
取締役	4名、うち社外2名
監査役	3名、うち社外3名

◎コーポレート・ガバナンス報告書(更新日:2019年03月29日)

基本的な考え方

当社グループは、お客様、株主様、さらには社会全体の信頼と期待に応え、企業価値の極大化のために、法令遵守に基づく企業倫理の確立が最重要課題であると認識しております。そのために、リスク管理、監督機能の強化を図り、経営の健全性・透明性を高め、もって経済社会の発展に寄与していく所存であります。

<実施しない主な原則とその理由>

【補充原則 4-1-②】

当社が属するモバイルコンテンツ業界は技術革新が目覚しく、サービス内容等についても日々進化しております。このような環境の中で、中長期計画を公表することは、環境の変化に対応する柔軟性等を損なう可能性があり、その結果当社の成長を阻害する可能性があります。そのため、当社では中長期の経営計画を公表しておりません。

【補充原則 4-1-③】

当社は、現時点では宮嶋氏の年齢等を踏まえ、最高経営責任者等の後継者に関する具体的な計画立案や取締役会での喫緊の課題としての議論等は実施しておりませんが、経営陣幹部を支える役員や管理職の育成は、持続的な成長と中長期的な企業価値向上を実現するための重要な課題であると認識し、組織の持続的成長と発展の牽引役を担う次世代幹部の育成・選抜を目的に、中堅の従業員を対象とした研修を実施しております。

【補充原則 4-10-①】

当社は、独立社外取締役が取締役総数の半数を占めており、重要な事項に関する検討に当たり独立社外取締役の適切な関与・助言を得られる体制を整えておりますが、諮問委員会の設立は考えておりません。今後は検討してまいります。

<開示している主な原則>

【原則 1-4】

当社は、政策保有株式については、事業上の連携強化等、当社の企業価値の維持向上に資すると判断した場合に保有する場合があります。なお、現時点において上場株式を保有しておりません。

【原則 1-7】

当社は、関連当事者との取引については、その取引を行うことが合理的であるか等を考慮しております。また、取引条件が他の取引と比較して適正であるか等に留意して、取締役会の承認を得ることとしております。

【原則 5-1】

当社は、当社の持続的な成長と中長期的な企業価値の向上のために、機関投資家及び個人投資家と積極的な対話を行う体制を整えております。

本レポートは情報提供を目的としたものであり、投資勧誘を意図するものではありません。また、本レポートに記載されている情報及び見解は当社が公表されたデータに基づいて作成したものです。本レポートに掲載された情報は、当社が信頼できると判断した情報源から入手したものです。その正確性・完全性を全面的に保証するものではありません。当該情報や見解の正確性、完全性もしくは妥当性についても保証するものではなく、また責任を負うものではありません。本レポートに関する一切の権利は(株)インベストメントブリッジにあり、本レポートの内容等につきましては今後予告無く変更される場合があります。投資にあたっての決定は、ご自身の判断でなされますようお願い申し上げます。

Copyright(C) 2019 Investment Bridge Co.,Ltd. All Rights Reserved.

ブリッジレポート(モバイルファクトリー:3912)のバックナンバー及びブリッジサロン(IRセミナー)の内容は、www.bridge-salon.jp/ でご覧になれます。